

平成25年度  
燕市教育行政評価結果報告書



燕市教育委員会

# 目 次

## I. はじめに

1. 点検・評価の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
2. 教育行政評価委員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
3. 点検・評価の実施状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

## II. 教育委員の事業一覧

1. 平成25年度の教育委員会事業一覧・・・・・・・・・・・・ 3

## III 点検・評価の結果（平成25年度評価対象事業）

1. 「子どもを育む推進事業」・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
2. 「燕キャプテンミーティング」・・・・・・・・・・・・ 10
3. 「運動部活動指導の工夫・改善支援事業」・・・・・・・・ 11
4. 「スポーツエキスパート活用事業」・・・・・・・・・・・・ 12
5. 「教育指導（標準学力検査等の実施）事業」・・・・・・・・ 13
6. 「Jack&Betty プロジェクト事業」・・・・・・・・・・・・ 14
7. 「ICT教育推進事業」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
8. 「子ども夢基金事業」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
9. 「西部学校給食センター改築事業」・・・・・・・・・・・・ 19
10. 「子育てつばめメール配信事業」・・・・・・・・・・・・ 20
11. 「病児・病後児保育事業」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
12. 「（仮称）燕西こども園整備事業」・・・・・・・・・・・・ 22
13. 「家庭教育推進事業」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
14. 「長善館史料館活性化事業」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
15. 「分水良寛史料館活性化事業」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
16. 「文化会館自主事業」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
17. 「恋ツバメ。普及事業」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
18. 「子ども体力向上サポート事業」・・・・・・・・・・・・ 27
19. 「東京ヤクルトスワローズカップ少年野球交流大会開催事業」・・ 28

## IV 教育行政評価結果報告書作成にあたって・・・・・・・・・・・・ 28

## I はじめに

### 1. 点検・評価の目的

市民に信頼される公正で透明、簡素で効率的な質の高い行政の実現を図るため、教育行政の実態把握や改善を行うことを目的に、実施する全施策及び全予算事業を対象として、継続的に実施結果の検証を行い、課題を明らかにし、今後の方向性を検討しています。

今年度は、燕市総合計画に掲載されている教育委員会関係の5つの施策のうちから、それぞれの施策の具体化を図る19の事業について、点検及び評価を実施しました。

【参考】地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十七条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第三項の規定により事務局職員に委任された事務を含む。）の管理及び執行について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うにあたっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

### 【5つの施策】

- ① 燕らしい特色のある教育の推進
- ② 教育環境の向上
- ③ 子育て支援の充実
- ④ 生涯学習・文化活動の充実
- ⑤ スポーツを通じた健康づくり活動の推進

### 2. 教育行政評価委員

(敬称略)

氏名	住所	職業	備考
委員長 赤坂宗道	燕市新堀 2137	僧侶	元県立高校校長
副委員長 藤沢達博	燕市小池 5460	会社役員	燕市国際交流ボランティア登録者
委員 齋藤ミチ子	燕市吉田上町 1-6	主婦	燕市文化協会芸能部吉田支部登録者

### 3. 点検・評価の実施状況

全ての予算事業とその上位目標である施策について調書を作成し、見直しや改善に向けて、自己評価を行い、平成26年度に向けての取り組み状況を示し、その中から19事業を評価委員より選定いただき、評価を行っていただきました。

開催日	出席者	視察及び会議内容
平成25年 11月22日(金)	委員3名、教育次長1名 教育委員会各課長及び事務局職員9名	・主要事業及び評価説明、委員からの点検評価事業の選定作業
平成25年 12月12日(木)	委員3名、教育委員会各課長及び事務局職員3名	・燕南こども園、たかだ小児科医院建設現場(病児・病後児保育事業)視察 ・長善館史料館、吉田南小学校ICT活用事業視察
平成25年 12月18日(水)	委員3名、教育次長1名 教育委員会各課長及び事務局職員6名	・事業評価作業
平成26年 1月8日(水)	委員3名、教育次長1名 教育委員会各課長及び事務局職員9名	・事業評価作業
平成26年 2月19日(水)	委員3名、教育次長2名 教育委員会各課長及び事務局職員10名	・評価内容の確認及び報告書の取りまとめ

## II. 教育委員会事業一覧表

### 1.平成25年度の教育委員会の取り組みを基に、今後の方向性を検討した事業

	No.	事業名	事業概要
学校教育課	1	子どもを育む推進事業	「いじめ見逃しゼロ 県民運動」を受け、各学校での取組みと共に、市内中学校区単位での「絆づくり集会」を通して、いじめ根絶に対する意識の高揚を図り、学校・家庭・地域での絆づくりを推進し、いじめの未然防止につながる社会性(自己肯定感・人間関係づくり能力等)の育成を図る。
	2	『燕長善タイム』実施事業	小学校では児童の集中力や学習意欲を高め、学校における生活リズムを培うとともに、中学校では生徒の家庭学習への取組を促す。
	3	燕ジュニア検定事業	各小学校において、社会科や総合的な学習の時間、生活科などの学習資料として、また、燕長善タイムの教材として、ジュニア検定問題集を活用するとともに、検定を実施し、郷土への理解を深め、郷土に愛着を持つ児童を育む。
	4	新潟大学教育学部とのパートナーシップ事業	児童生徒の「言葉の力」を育成するため、新潟大学教育学部の教授・准教授による最新の学術理論にもとづいた授業実践を市内の小中学校で展開する。平成24年度より実施しているパイロット校での実践を市内の小中学校に広げる。
	5	燕キャプテンミーティング (平成26年度新規事業)	リーダーとして大切なコミュニケーション能力や課題解決能力等を養うため、学校や活動種目の枠を超えて、市内中学校の部活動において中心的な役割を担う子どもたちを対象に研修を行う。
	6	長善館学習塾事業	かつて長善館で学んだ方の中から政治家や学者、医師などが輩出されたように、様々な講師から話を聞き、勉強し、体験活動を行うことを通して、思考力、創造力、コミュニケーション能力を養うことによりリーダーとしての資質を身に付け、未来の燕市を担う子どもたちの育成を行う。

7	小中学校教職員研修事業	平成25年度で整備した教職員研修事業を体系化し、充実させる。
8	運動部活動指導の工夫・改善支援事業	生徒が多様なスポーツに親しみ、体力の向上を図るとともに、教員が生徒と向き合う時間を確保する観点から、地域スポーツ指導者（外部指導者）の活用を行う。H25年度は運動部活動地域連携再構築事業として実施。
9	スポーツエキスパート活用事業	競技力の向上を目指している中学校に優秀な外部指導者（スポーツエキスパート）を派遣し、運動部活動の振興と地域社会の連携を促進することを目的とする。合わせて教職員の負担軽減を図る。
10	『笑顔を忘れないで』普及事業 【ゼロ予算】	燕市出身で、17歳で他界した少女が、難病と闘いながら入院生活や周囲への感謝の気持ちを詩に書き残した「笑顔忘れないで」を歌い継ぐことを通して、歌に込められた思いに触れ、子どもたちの豊かな心を育てる。
11	姉妹都市児童生徒交流事業 (旧海外派遣事業)	近年、国際化が進む中で国際理解や国際交流の必要性が高くなってきている。燕市が学校教育の重点として掲げる人間性豊かで生きる力のみなぎる子どもを育てるために、海外で学んだり、異文化を体験したりすることで、思考力、創造力、コミュニケーション能力を養い、リーダーとして未来の燕市を担う人材を育成する。
12	教育指導費（標準学力検査等の実施）	学力の実態を把握し、改善に向けた基礎資料を得るため、NRT（全国標準学力検査＝相対評価法による学力検査）、CRT（標準学力検査＝絶対評価法による学力検査）、QU（児童生徒の学校満足度調査）を行う。 市内児童生徒の「全国学力調査」の正答率を県及び全国平均以上にする。
13	Jack & Betty プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼・保・小・中の一貫した英語教育を行うことにより、海外で活躍したり、外国との交流を推進できるような、燕市の将来の発展に貢献する人材を育成する。</li> <li>・英語教育のための教員研修の場として、実践中心の研修に継続的に参加してもらい、資質の向上を図る。</li> <li>・中学校区での小中連携を推進して、燕市の特色ある英語教育の定着を図る。</li> <li>・Jack &amp; Betty 教室を開催し、希望者を対象に、土曜日午後等を活用し、英語の力をさらに伸ばす機会を充実させる。</li> </ul>
14	校外学習推進事業 (小学校)	児童が地域の歴史や産業、文化等、児童の生活条件を形作っている諸要素について、見学や体験などを行うことを通して、生活地域を総合的に広く深く理解することを目的に、外部施設等に出かけて学習する郊外活動を支援する。
15	校外学習推進事業 (中学校)	生徒が生活科・社会科・理科・体育などの授業の一環として実地見学や体験などを行うことを目的として、各中学校が外部施設等に出かけて学習する校外学習を支援する。
16	地域に根ざす学校応援団事業	学校の様々な活動を地域のボランティアが支援することで、教員が子どもと向き合う時間を確保するとともに、子どもが地域の大人とふれあうことにより「生きる力」の育成に繋げる。
17	学習支援充実事業	各小・中学校に学習指導補助員を配置し、学習指導、特別活動及び生徒指導等の補助を行うことにより、個に応じた指導の充実を図る。 平成26年度からは、学習指導補助員に替えて学習支援員を配置する。
18	学校管理費（中学校）（柔道用畳購入）	中学校の体育授業用の柔道畳を年次的に更新する。
19	別室登校児童生徒学習支援員配置事業	学習に対する不安や、人間関係に対する不安等から、登校はできるが教室に入らず、別室へ登校する生徒に対して、学習を保障し「学級」への復帰を促す。
20	学校図書館充実事業	新たな学校図書館管理システムを導入するとともに専従職員を配置することにより、

学 校 教 育 課		(学校図書館管理システムの導入等)	適正な蔵書管理や子どもたちの読書傾向を把握し、学校図書館の充実を図る。これにより子どもたちの読書の機会が増え、児童生徒の心を耕しながら、学力の向上を目指す。
	21	教育振興扶助費 (小学校)	経済的な理由により就学困難な児童の保護者、(学校教育法施行令第22条の3)の障害の程度に該当する児童及び特別支援学級に在籍する児童の保護者に対し、学用品費等、学校に必要な費用の援助を行うことにより、経済的な負担を軽減し、児童が支障なく義務教育を受けられるようにする。また、小学校でかかる費用の一部を援助することにより、保護者が児童の就学に必要な経費を滞りなく負担できるようにする。
	22	教育振興扶助費 (中学校)	経済的な理由により就学困難な生徒の保護者、(学校教育法施行令第22条の3)の障害の程度に該当する生徒及び特別支援学級に在籍する生徒の保護者に対し、学用品費等、学校に必要な費用の援助を行うことにより、経済的な負担を軽減し、生徒が支障なく義務教育を受けられるようにする。また、中学校でかかる費用の一部を援助することにより、保護者が生徒の就学に必要な経費を滞りなく負担できるようにする。
	23	笑顔で入学支援事業	平成25年度は、就学时健康診断及び入学説明会の機会を捉え、保護者の入学に対する不安を解消し、小学校入学を円滑にするために「入学前プログラム」を活用し、「笑顔で入学支援プロジェクト」を2校で実施した。平成26年度は事業名を「笑顔で入学支援事業」に変更し、学校が希望する講師による講演会を実施できるようにするとともに、教育委員会が「燕市の学校教育のようす」等を説明する機会とする。
	24	楽器整備事業【学校備品購入費】	児童生徒の音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、豊かな情操を養うため、配当予算では購入が難しい高額な楽器について、整備事業として実施することで、音楽活動の充実を図る。平成26年度はグランドピアノを更新。
	25	理科教育等設備整備事業 (小学校)	学習指導要領では、理科の授業時数が増加し、観察・実験など、学習活動の大幅な拡充が必要となっている。児童の科学的な知識や技能を習得させるとともに、工夫創造の能力を養うため、小学校の理科教育設備(理科・算数の備品等)の整備を行う。
	26	理科教育等設備整備事業 (中学校)	学習指導要領では、理科の授業時数が増加し、観察・実験など、学習活動の大幅な拡充が必要となっている。生徒の科学的な知識や技能を習得させるとともに、工夫創造の能力を養うため、中学校の理科教育設備(理科・数学の備品等)の整備を行う。
	27	教職員用PC整備	教職員用のパソコンを入れ替え、セキュリティを保ったうえで、教職員が使いやすい環境を整備するとともに、教育委員会と学校間の連絡強化を図る。また、校務支援システムを導入することにより、校務の効率化を行い、児童・生徒と向き合う時間を確保し、教育の質の向上を図る。
	28	教育指導費(教科用図書整備)	教師用教科書を学級数分及び教師用指導資料を各学年に各教科を1セット整備する。
	29	ICT教育推進事業	子どもたちの学習意欲を引き出すとともに、基礎学力の定着を目指し、わかりやすい授業を展開するため、デジタルテレビ(モニターとして)、書画カメラ、パソコンを整備する。合わせて、ICT支援員を雇用し、学校へ配置することにより、ICT機器を積極的に活用し、児童の学力向上を図る。
30	学校給食運営費(学校給食用食器更新)	地域によって形状等にバラつきがあり、かつ経年劣化した学校給食用食器等を新たに購入することにより、衛生的で快適な給食環境を整える。	

	31	給食センター管理運営費 (学校給食管理データシステム導入)	小中学校の児童生徒に安全安心な学校給食を提供するため、献立・調理・発注・栄養管理業務の他に、新しくアレルギー食対応を開始するため、給食管理システムの導入を図る。平成25年度は西部学校給食センター分を導入。
	32	吉田小学校改築事業	平成26年度は、吉田中央保育園及びプール、吉田学校給食センターを解体し、屋内運動場を改築する。
	33	西部学校給食センター改築事業	吉田学校給食センター及び分水学校給食センターの老朽化に伴い、二つの給食センターを統合し、学校給食法に定められる衛生管理基準をクリアーするとともに、アレルギー食に対応した、安全安心な学校給食を提供できる給食施設を建設する。平成26年度9月から供用開始予定。
	34	東部学校給食センター改築事業	燕地区に、学校給食法に定められる衛生管理基準をクリアーするとともに、アレルギー食に対応した、安全安心な学校給食を提供できる給食施設を建設する。平成26年度は建設用地の田畑の地盤を締めるための盛土搬入工事と外周整備工事等を行う。
	35	子ども夢基金	燕市の未来を担う子どもたちを育成することを目的に、子ども夢基金を活用して、子どもたちの夢にかかわる事業を支援する。
子育て支援課	36	「つばめおはようタイム」の実施事業	幼稚園・保育園児を対象に、子どもたちの生活のリズムを整え集中力を育成し、小1プロブレムの解消を図る。
	37	私立保育園障がい児保育事業補助金	私立保育園における障がい児の保育を推進するため、障がい児を受け入れている私立保育園に対して保育士の加配に補助を行うことにより、障がい児の処遇の向上を図る。
	38	私立保育園整備事業	老朽改築による保育環境整備など、保育園施設整備に要する費用の一部を補助することにより、子どもを安心して育てることができるような体制整備を行う。
	39	子育てつばめメール配信事業	相談窓口や支援制度、イベントなど子育てに役立つ情報を、登録した保護者の携帯電話やスマートフォンへメール配信することにより、子育てを応援し、市の子育て支援に関する事業や施設など有効に活用してもらう。
	40	病後児預かり基礎講習事業	ファミリー・サポート・センターを活用して、病気回復期や病後で保育園など集団生活が困難な時期の子どもを一時的に預かり、保護者が安心して子育て・仕事ができる環境を整えるため、病後児預かりを行える知識等を提供会員に習得させる。
	41	病児・病後児保育事業	市内小児科医院に併設した保育施設において、病気の児童を一時的に保育し、安心して子育てができる環境を整備し、子育てをする保護者を支援する。
	42	地域子育て支援講座事業	子育てでの不安や悩みを分かち合うことで、子育ての負担を軽減するとともに、同世代の子どもを持つ親同士のつながり・交流を促進する。
	43	吉田西太田保育園増築・改修事業	吉田西太田保育園を増築・改修し、定員を100名から140名に変更し、0歳児から5歳児までを保育します。
	44	児童クラブ運営費補助金	民間実施団体の社会福祉法人、吉田福祉会へ運営費補助を行い、放課後児童の健全育成を図る。
	45	子育て支援金支給事業	次代を担う子どもたちのすこやかな成長を願うとともに、子育て家庭を支援し、魅力ある明るく住み良いまちづくりに寄与することを目的として子育て支援金を支給する。(第3子以降赤ちゃん誕生祝い金支給対象者で、小学校・中学校・高等学校入学時に支給。)
46	(仮称)燕西こども園整備事業	燕西幼稚園と燕保育園を統合し、現在の燕保育園を増築・改修して(仮称)燕西こども園に整備する。(定員130人)	

	47	子ども・子育て支援事業計画策定	国が定める子ども・子育て基本指針に即して、5年を一期とする教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の供給体制の確保と、子ども・子育て支援法に基づく業務の円滑な実施に関する計画を策定する。
生涯学習課	48	つばめっ子かるた普及推進事業	ふるさとへの誇りと愛着を育むための郷土学習及び子供たちの健全育成の一環として「つばめっ子かるた」を普及する。
	49	指定管理者による図書館運営	年々厳しくなる運営経費や職員体制、また図書館利用者の減少など、現在市立図書館がかかえている課題を解消するため指定管理者による図書館運営を25年度4月から実施した。
	50	エコブックつばめ事業（寄贈図書を受け入れとリサイクル）	家庭等で不要となった本（主に児童書・絵本・育児書）を活用することで、読書活動の整備を幅広く行う。
	51	つばめBOOK サポーター育成事業	市内読み聞かせ関係団体を対象に意見交換会を行い、技術・知識の向上を図る場を持つことで、横のつながりが生まれ、市内の読書活動がより一層充実できるようにプラットフォームを創設し、団体の所属人数や新規団体を増やす。
	52	家庭教育推進事業	子どもたちの豊かな心を育てる「心の燕市8つのチャレンジ」を地域・家庭において定着させ推進し、更に、親子で食の大切さを学び、子どもたちが好ましい食生活を送るための力を育むことで、食育を推進する。
	53	市民教養講座事業	市民の自己学習・相互学習意欲を啓発し、生涯学習の基礎づくりを推進する。
	54	吉田公民館耐震・大規模改修事業	耐震・大規模改修工事により、安全・安心な市民の文化活動の拠点として、また、災害時には地区の避難施設として市民の安全を確保する。
	55	長善館史料館活性化事業	内外ともに高い認知度を得ながら入館者の増加を果たすとともに、すべての市民から展示テーマを認識いただき、館の存在に誇りと愛着を持っていただくこと。
	56	分水良寛史料館活性化事業	内外ともに高い認知度を得ながら入館者の増加を果たすとともに、すべての市民から展示テーマを認識いただき、館の存在に誇りと愛着を持っていただくこと。
	57	文化財保護事業（文化財保管のあり方）	整理が不十分な資料は台帳を整備し、適切に保管できるようにする。また、これにより市民の閲覧等自主的な利用や展示公開などの活用に対応しやすいようにする。
	58	文化会館自主事業	市民のニーズに対応し優れたアーティストによる舞台芸術作品の提供や市民芸術・文化活動の場を提供することで、芸術文化の向上を図りたい。
	59	文化会館改修事業	経年劣化による舞台関係設備を改修・更新し、安全でかつグレードの高い会館にリニューアルし、多くの団体や市民から利用していただく。
	60	文化活動支援事業	市民の文化の関心を高め、自主的な文化活動の活発な展開と個性豊かな市民文化の振興に資するため、市民の文化活動等の自主的な文化活動に係る事業に対する助成金を交付し、団体への負担を少なくしたい。
	61	恋ツバメ。普及事業	楽譜・CDの無償頒布・出前生ステージで普及を図り、市音楽祭や各学校文化祭などでとりあげてもらうとともに、各家庭にも普及を図りたい。
	62	ESCO事業	文化会館・中央公民館においてESCO事業を導入し、民間事業者の専門的なノウハウを活かした省エネ化の推進による環境負荷の低減、並びに施設維持管理費の削減を図る。



ス ポ ー ツ 推 進 課	63	健康づくり100日運動推進事業	燕市における成人の週1回以上のスポーツ実施率が33.9%であり低い。(国45.4% 県37.3%)成人の週1回以上のスポーツ実施率を50%以上にする。
	64	子どもの体力向上サポート事業	燕市における小学生の体力・運動能力の平均値が国・県の平均値を下回っている種目もあるため、小学生の体力・運動能力の向上を図る。 小学校の体育授業の前半15分程度に、体力・筋力アップのサポートプログラムを実施する。
	65	スポーツ教室開催事業	スポーツ教室を開催することで、スポーツを通じた市民の健康や体力の保持増進を図るとともに、より多くの市民がスポーツに親しみ、楽しむことができる生涯スポーツ社会の実現を目指す。
	66	東京ヤクルトスワローズカップ少年野球交流大会開催事業	東京ヤクルトスワローズに、関係の深い愛媛県松山市、沖縄県浦添市、宮崎県西都市、燕市の4市による交流事業として、平成25年度から少年野球交流大会を輪番制で開催しており、平成26年度は燕市を会場に開催する。
	67	総合型地域スポーツクラブ整備統合推進事業	総合型地域スポーツクラブが平成25年3月に吉田地区に設立し、3地区全てに設立することができた。今後は、各地区のクラブの組織や事業の充実を図るとともに、組織の統合を図ることで市民が公平にスポーツサービスを楽しめる環境を整備する。
	68	ビジョンよしだ設備等改修事業	ビジョンよしだは平成6年度に開館以来19年が経過し、施設設備の老朽化が進み、施設設備の突発的な故障が多発している。計画的な施設設備の更新を行うことにより、利用者から気持ち良く利用していただき、健康の維持や体力向上に役立てていただく。平成26年度は、改修工事の実施設計を行う計画。
	69	吉田総合体育館耐震等改修事業	吉田総合体育館の利用者が安心して施設を利用できるよう、耐震診断に基づき耐震改修工事を行う。
	70	吉田武道館耐震等改修事業	吉田武道館の利用者が安心して施設を利用できるよう、耐震診断に基づき耐震改修工事を行う。
	71	燕市体育施設指定管理委託事業	平成26年度から市内の25の体育施設に指定管理者制度を導入し、施設管理を実施する。多様化する市民のスポーツニーズに、より一層対応し、市民に充実したスポーツサービスを提供するとともに、燕市体育施設の管理運営を効率的、効果的にを行い、体育施設を活用したスポーツの実施率を高めることを目的とする。
	72	体育施設修繕事業	体育施設の機能維持のため、計画的に施設の修繕を行う。



### Ⅲ 点検・評価の結果

#### 「燕らしい特色ある教育の推進」

点検項目	1. 子どもを育む推進事業
25 年度達成目標	「いじめ見逃しゼロ 県民運動」を受け、市内中学校区単位での「絆づくり集会」を実施し、小中学生が発表や話し合いを通して、相互の信頼関係を深め、いじめや不登校ゼロを目指す。
目標の達成状況	全中学校区での絆スクール集会を通して、児童生徒1人ひとりのいじめに対する意識を高め、いじめを許さない絆づくりと社会性の育成を図ることができた。
取組の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 燕市子どもを育む推進協議会における意見交換</li> <li>② 悩み相談ダイヤルカード配付</li> <li>③ 全中学校区での「絆スクール集会（子どもフォーラム）の開催</li> </ul>
自己評価	小学校 6 年生と中学校 1 年生、また 2 年生が、交流する機会を通じて中 1 ギャップの予防・緩和を図ることができた。
評価委員の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 推進協議会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・意見の交流会だけにならないようにしてほしい。いじめ、不登校がなくなるため、必要な事業かどうかを検討していただきたい。</li> <li>・学校、地域、家庭の関係機関が互いに協力し連携を取り、子どもたちの健全育成に務める支援体制づくりが大切と思われる。</li> </ul> </li> <li>② 悩み相談 <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめに対しての受け止めについて、教育委員会の指導、活動をもっと丁寧に、市民に見えるようなかたちで PR する必要があると思われる。</li> <li>・子育ての不安や悩みを抱えながらも、相談もできずにいる家庭も少なくないと思われる。</li> <li>・子育て家庭の抱える問題も複雑、多様化している。</li> </ul> </li> <li>③ 子どもフォーラム <ul style="list-style-type: none"> <li>・フォーラムを開催するだけでなく、アンケート（対象：学校・児童・生徒）の結果を参考にして、集会を通して何を感じたのか検証し、今後の取り組みについて具体的な方向性を示してほしい。</li> <li>・毎日の家庭生活を大事にし、それぞれの活動での問題を共有し、対応できるような支援体制が大切である。</li> </ul> </li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 推進協議会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校、家庭、地域が連携し、それぞれの立場での活動内容を具体化し、活動を通して周知の徹底を図る。</li> <li>・地域に根ざす学校応援団事業の充実を図るため、地域による学校支援システムに取り組む。</li> </ul> </li> <li>② 悩み相談 <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導主事・嘱託指導主事による個々のケースに応じた相談を行う。</li> </ul> </li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適応指導教室指導員・心の教室相談員との連携を図り、児童生徒・保護者への支援に努める。</li> <li>・サポートチームを活用し、「個別支援計画の実践と充実」や「個々の児童生徒に応じた対応」に取り組む。</li> <li>・いじめに関して、自分の考えを表現することにより「いじめをしない」「いじめを許さない」という意識の高まりに結びつけていく。</li> </ul> <p>③ 子どもフォーラム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校児童生徒が意図的に関わり合う機会を設け、他校との交流や異年齢交流を通じて、「人と関わる意欲」の向上を図る。</li> <li>・集会開催前に、学校、教育委員会で協議を行い、内容及びアンケートについて検討を行う。</li> </ul>
--	--

【所管：学校教育課】



### 燕らしい特色ある教育の推進

点検項目	【26年度事業】 2. 燕キャプテンミーティング 事業
達成目標	リーダーとして必要な資質を学ぶと同時に、学校や種目の枠にとらわれずに交流し、お互いに切磋琢磨し合う仲間として今後も連携していけるような関係作りを行う。
取組の概要	リーダーとして大切なコミュニケーション能力や課題解決能力等を養うため、学校や活動種目の枠を越えて、部活動において中心的な役割を担う中学生を対象に3日間、リーダー向け講演会やグループワーク等を行う。 具体的には、講師からの講演や「リーダーとして必要なこと」を題材にワークショップを行ったり、部活動内で中心的な役割を担う生徒という同じ立場からお互いの悩みをグループで共有したり、レクリエーションを通して、体を動かしながらチームワークやリーダーの大切さを学ぶ。
評価委員の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・とてもいい事業だと思う。リーダーだけを選ぶのではなく、違う意見を持った子どもたちを選ぶ方法を検討してほしい。</li> <li>・事業としては面白いが、20人は少ない。</li> <li>・現在、リーダーとして活躍されている市長、保護者の方から話を聞くなど講師の選定について、多方面からの選んでほしい。</li> <li>・学校へ戻ってからの成果発表について、検討してほしい。</li> <li>・より積極的な子どもを育成していただき、将来、リーダーとして活躍できるような子どもたちを育ててほしい。</li> <li>・自分の意見を、表に出して、自分を主張できるような子どもを育成していただきたい。</li> <li>・中学生から人の前で、堂々と意見が言える、自分の思いや、個性を主張できる子どもをぜひ育ててほしい。</li> </ul>

今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャプテンだけを対象にするのではなく、今後リーダーとして活躍していきたいと希望する生徒も参加可能とする。</li> <li>・学年や男女、文化系、スポーツ系問わずに募集をかけ、中学生が興味を持てるようなプログラムや講師を検討する。</li> <li>・また、参加者の中から次のキャプテンになる子、これを機に自分を変えたいという子のきっかけづくりにしていきたい。</li> </ul>
--------	---

【所管：学校教育課】



「燕らしい特色ある教育の推進」

点検項目	3. 運動部活動指導の工夫・改善支援事業
25年度達成目標	生徒がスポーツに親しみ、体力の向上を図るとともに、教員の負担を減らし、多くの生徒と向き合う時間を確保するため、地域スポーツ指導者を各学校に派遣する。
目標の達成状況	学校からの希望により、外部指導者1人の派遣回数を年間30回とし、1回の指導時間を2時間程度として派遣することができた。
取組の概要	中学校全校に外部指導者の派遣について希望調査を行い、希望に合わせて新潟県教育委員会へ申請。県教育委員会からの決定を受け、外部指導者を各学校に派遣する。
自己評価	再度必要な部活動を精査し、外部指導者を派遣していかなければならない。
評価委員の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一生懸命活動しているからには、結果を出してやりたい思いがあるので、外部協力は良いことだと思われる。</li> <li>・外部指導者は結果を求めるので、体罰の恐れがある。必ず顧問が責任をもって、指導してほしい。</li> <li>・技術が優先されて、体罰にならないよう指導してほしい。</li> <li>・指導者に対して、事前指導をしっかりといただき、子どもたちの悩みや心のケア等についても指導をお願いしたい。</li> <li>・文化部の指導も検討してほしい。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が部活動を行う際に、外部指導者による専門的な指導を行い、競技力を向上させていきたい。合わせて教員の負担を減らし、生徒と向き合う時間を確保したい。</li> <li>・外部指導者に対して、事前に「子どもたちの心」を大切にする指導を行い、体罰が行われないよう、適正に対応する。</li> </ul>

【所管：学校教育課】



「燕らしい特色ある教育の推進」

点検項目	4. スポーツエキスパート活用事業
25年度達成目標	競技力の向上を目指している中学校に優秀な外部指導者（スポーツエキスパート）を派遣し、運動部活動の振興と地域社会との連携を促進する。
目標の達成状況	学校における部活動については専門的な指導ができる教職員が限られているため、中学校の多くの運動部で指導者が不足しているが、学校からの外部指導者の要望を受けて11名を派遣できた。
取組の概要	中学校全校に外部指導者の派遣について希望調査を行い、希望に合わせて県教育委員会へ申請。県教育委員会からの決定を受け、外部指導者を各学校に派遣し、運動部顧問に協力しながら、技術指導にあたる。
自己評価	現在、学校における運動部については専門的な指導ができる教職員が限られているため、中学校の多くの運動部活動で指導者が不足しているが、運動部活動地域連携再構築事業と合わせて、希望するすべての学校へ派遣を行うことができた。
評価委員の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・競技力向上が望める一方、成果を求めるあまり、指導が過剰になる可能性もあり、顧問教師による監督・指導を十分に行う必要がある。</li> <li>・同じ指導者が継続的に指導できるような、取組を検討していただきたい。</li> <li>・同じ学校において、指導者の不公平感がないように、事前の指導が必要である。</li> <li>・スポーツの楽しさ、達成感を体験することにより、生涯にわたりスポーツに親しむ基礎を培う取り組みが必要である。</li> <li>・学校現場、子どもたちの心の発達状況等について、指導者に十分周知のうえ、指導いただきたい。</li> <li>・文化部への支援策も検討してほしい。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが部活動を行う際に、外部指導者による専門的な指導を行い、競技力を向上させていきたい。合わせて教員の負担を減らし、生徒と向き合う時間を確保したい。</li> <li>・実際の活動において、種目や部員構成などにより多様な指導スタイルを考慮して、部員が充実感と意欲を持って部活動に取り組めるような指導に努め、有効な活用を図っていきたい。</li> <li>・外部指導者に向けて、「安全な運動部活動の指導について」の研修会を実施したい。</li> </ul>

【所管：学校教育課】



「教育環境の向上」

点検項目	5. 教育指導（標準学力検査等の実施）事業
25 年度達成目標	市内児童生徒の NRT（教研式全国学力調査）の標準偏差 50 未満の延べ教科数を 2 とする。全国学力・学習状況調査で県及び全国の平均正答率をすべての教科で上回る。
目標の達成状況	全国学力・学習状況調査の平均正答率は、小学校では県及び全国平均を上回ったが、中学校はやや下回っている。
取組の概要	全国学力学習状況調査では、燕市の児童生徒の学力は改善傾向にあり、小学校は全国値を上回り、中学校は全国値をやや下回っている。引き続き、学力実態を把握し、改善に向けた基礎資料を作成する。
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施した調査や検査の結果分析を生かし、授業改善が進んでいると評価する。</li> </ul>
評価委員の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力検査は必要と感じるが、3 種類は大変ではないかと懸念している。</li> <li>・子どもたちの負担や教員の負担にならないよう検討してほしい。</li> <li>・学力テストだけでなく、もっと良い授業、子どもたちがわかって楽しく学ぶことができるように、毎日の授業を大切にしてほしい。</li> <li>・家庭学習の環境作りや学習の定着度のチェックは保護者の支援が必要である。</li> <li>・家庭学習の定着をどのように組み立て、学力向上に繋げていくか十分検討し、取り組んでいただきたい。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導主事の学校訪問や教員研修により授業改善を引き続き行い、わかる授業を第一に取り組む。</li> <li>・有効、効果のある全国学力・学習状況調査、NRT 等の学力測定の結果を授業改善や補充指導に活かしていく必要があるため、今後も実施する。</li> <li>・今年度予定していた標準検査はすべて実施したので、結果を分析し、授業改善に活かしたい。</li> <li>・中学校では、長善タイムを第一に取り組み、家庭学習につなげていきたい。</li> </ul>

【所管：学校教育課】





「教育環境の向上」

点検項目	6. Jack&Betty プロジェクト事業
25 年度達成目標	<p>小学校 3 年生～中学校 3 年生までの 7 年間にわたる一貫した英語教育を行うことにより、海外で活躍したり外国との交流を推進できるような、燕市の将来の発展に貢献する人材を育成する。</p> <p>英語教育の教員研修の場として、実践中心の研修に継続的に参加してもらい、資質の向上を図る。</p> <p>中学校区での小中連携を推進し、燕市の特色ある英語教育の定着を図る。</p>
目標の達成状況	<p>ALT 及び JTE を増員し、幼保での英語遊びや、小・中での英語学習活動を充実させた。</p> <p>Jack&amp;Betty 教室を開催し、英語の力をさらに伸ばす機会を設定した。</p>
取組の概要	<p>幼保、小、中への ALT、JTE の派遣回数を増やし、英語科授業や小学校外国語活動の授業も充実させた。</p> <p>Jack&amp;Betty 教室には、当初目標の 100 人を大きく上回る 181 人が参加した。</p>
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Jack &amp; Betty 教室は、予想を上回る参加者数であった。</li> <li>・ 英語検定は、予想を上回る受験者数であり、小学生を中心に参加者の二層があると手ごたえを感じた。</li> </ul>
評価委員の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 勉強を好きにさせるためのプロジェクトと考えるが、目標も数字として表すと良いと思われる。</li> <li>・ 子どもたちが小さいころから、英語に親しむことは良いことである。</li> <li>・ どうすれば日常生活に取り入れて、英語が面白いと感じ、興味を持って学習し、そして、わかる授業になるか考えてほしい。</li> <li>・ 運営は難しいと思われるが、行政も積極的に関わり、子どもたちの学力を伸ばしてほしい。</li> <li>・ 授業にない活動や学習が英語を好きにさせ、おもしろいと感じさせているのではないかとと思われる。</li> <li>・ 特色ある取組として、継続的に行ってほしい。</li> <li>・ 英語検定を全市で一斉に取り組む検討も必要ではないかと思う。</li> <li>・ 事業を浸透させるため、小学校の低学年から遊びを通して、楽しく、面白く、英語に親しむことができるような発展的な事業も検討していただきたい。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英語検定を年 3 回実施する。夏休みに、英語検定協会の講師を招いてセミナーを開催し、英語検定についての理解を深めてもらい、多くの児童・生徒からチャレンジしてもらおう。</li> <li>・ 今年度から始まった事業なので、今後発展した事業を検討していきたい。</li> </ul>

【所管：学校教育課】



「教育環境の向上」

点検項目	7. ICT教育推進事業
25年度達成目標	子どもたちの学習意欲を引き出すとともに、基礎学力の定着を目指し、わかりやすい授業を展開するため、現在整備されているICT機器の活用を推進する。
目標の達成状況	プロジェクターなどの整備は、平成25年8月に吉田小、吉田中に機器を導入し、全市的に整備を完了した。
取組の概要	社会のICT化に対応した人材を育成することを目的に、ICT機器を活用した授業に取り組み、必要な情報を主体的に収集、発信、伝達できる能力を身につけ、21世紀を生きる子どもたちに求められる力を育む。
自己評価	ICT機器を利用した授業はわかりやすいかという質問に85.2%、ICT機器を利用した授業は楽しいかという質問に77.2%の児童生徒が「はい」と答えており、ICT機器の活用が子どもたちの学びにつながっている。
評価委員の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先日の授業を視察したが、とても良い活用をしている。</li> <li>・最先端の技術を使った授業であると思うし、ICTは便利である。しかし、活用方法を考えるとまだ、疑問もある。</li> <li>・能力のある教員は、アクセントを付けるのには良いと思うが、教材によっては、まだ、難しいと思われる。</li> <li>・個々の教員の取り組みを共有して、わかる授業への取組が広がっていく方法を考えていただきたい。</li> <li>・子どもは楽しいと勉強する。機器を上手に使って、授業を面白くしてやれば、子どもはやる気が出てくる。</li> <li>・ICT機器を取り入れた成果は、これから出てくるものと思われる。今は、研究の過程なので、教材の共有や教員研修を実施し、活用方法の定着に取り組む必要がある。</li> <li>・全小中学校にタブレットPCを用いた授業を導入できるような、工夫をぜひお願いしたい。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26年度から吉田南小学校で行われていたICT活用普及促進協議会を全市的に広げるとともに、全学校に1名以上のICT教育推進リーダーを選任してもらい、ICT教育の推進を図る。</li> <li>・すべての子どもたちが、同じ環境で学ぶことができるよう、ICTを活用した授業を積極的に取り組んでいく。</li> </ul>

【所管：学校教育課】





「燕らしい特色ある教育の推進」

点検項目	8. 子ども夢基金事業
25年度達成目標	燕市の未来を担う子どもたちを育成することを目的に、子ども夢基金を活用し、子どもたちの夢に関わる事業等の実施を支援する。
目標の達成状況	子ども夢づくり事業を活用した、燕北中学校の「ロボコン」が全国大会出場。分水中学校が実施したモザンビークの子どもたちにメッセージと文房具を贈る活動が、国際理解教育プレゼンテーションコンテストに出場するなど、夢に繋がる結果が出てきている。
取組の概要	<p>① 小・中学生全国スポーツ大会出場選手遠征費補助金 小学生及び中学生の競技力の向上と遠征費の負担軽減を図ることを目的として、スポーツの全国大会に出場する小・中学生の遠征について、補助金を交付する。</p> <p>② 子ども夢づくり支援事業補助金 児童会・生徒会・クラスなどにおいて、子どもたちの夢に関わる事業を実施する場合、その事業に要する経費を補助する。</p>
自己評価	<p>① スポーツ遠征費補助金 ・全国大会に参加した小学生及び中学生の遠征費について保護者の負担軽減につながっている。 ・中等教育学校の取り扱いについても、今後の検討が必要である。</p> <p>② 子ども夢づくり支援事業 ・子どもたちが自主的、主体的に企画、運営を行うことにより、生徒会や学級の一体化、夢の発見や夢に向かって努力することの大切さについて学ぶ機会として、各学校での活用が定着してきた。事業の内容がより充実するようにPRに努めたい。 ・子ども夢基金の財源となる寄付金の額が伸びないため、子ども夢基金についての周知を図る必要がある。</p>
評価委員の評価	<p>・たくさんの方々から応援していただいて、実現している事業であり、ありがたい。継続を希望する。</p> <p>・事業に対する財源が必要である。今後は、寄付への呼びかけをお願いしたい。</p> <p>・財源がなければ継続できない事業なので、寄附金ありがたい。</p>
今後の方向性	<p>・子ども夢づくり支援事業をより充実させるため、補助金の支給方法や金額の見直しが必要と思われる。</p> <p>・子ども夢づくり事業の成果発表について、検討していきたい。</p>

【所管：学校教育課】



## H25 年度 燕市小・中学生全国スポーツ出場選手遠征費補助金 交付実績

H25. 2. 28 現在

	小学生		中学生		合 計	
	人数	金額	人数	金額	人数	金額
空手道	14	273,543	20	533,396	34	806,939
剣道	9	130,500	4	100,340	13	230,840
柔道			14	195,286	14	195,286
ゲートボール	7	113,400	1	16,200	8	129,600
バレーボール						
野球	4	168,000			4	168,000
卓球	5	122,092			5	122,092
ソフトテニス	3	61,500	2	69,444	5	130,944
水泳			4	89,280	4	89,280
陸上			2	67,200	2	67,200
バトミントン	1	50,000			1	50,000
合計	43	919,035	47	1,071,146	90	1,990,181

## 子ども夢づくり支援事業

No.	事業名	学校名	事業内容
1	ロボコン燕北中 立ち上がれチーム北中！めざせ県大会！！	燕北中学校	ロボコンチームを結成し、放課後、長期休業中にロボットを作成し「創造アイデアロボットコンテスト」へ出場した。 新潟大会において、優勝、準優勝、三位と3チームとも入賞でき、そのうち2チームは、関東甲信越地区大会に進み、奮闘した。他校や他県の生徒との交流を通して様々なロボットを学ぶことができた。
2	祝！米納津隕石里帰り！3年生学習発表会	吉田北小学校	米納津隕石の里帰り歓迎行事の中で、3年生が総合学習で学級の枠を超え、紙芝居や劇、絵本、創作ダンスなどの発表会を開催した。
3	「子どもが作る『弁当の日』企画その2「台所に立つことで見えてくるもの」	分水小学校	前年度、分水地区3小学校合同で食育講演会を開催し、毎日摂取している食物物質の実態について、興味を強く抱いた。今年度実施する年3回の弁当の日の実施にあたり、「子どもが作る『弁当の日』の提唱者の先生の講演会を開催し、大人への第一歩を踏み出した。
4	～本当の大人になるための第一歩～	分水北小学校	
5		島上小学校	
6	子どもが作る「弁当の日」 台所に立つことで見えてくるもの ～本当に大人になるための第一歩～	分水中学校	【分水地区3小学校、分水中学校合同企画による講演会】 食の大切さを通して家庭内での親子のコミュニケーションや、学校内でのチームワークの形成に役立つ講演会を開催した。
7	壁画家・紙芝居作家 松井エコ講演会	吉田小学校	「一人ひとりの輝きとガラスモザイクの織りなすハーモニー」と題し、作成壁画への思いを子どもたちへのメッセージとして直接語りかけていただく講演会を開催した。
8	赤門祭パワーアッププラン ～わくわく どきどき 体験教室～	燕東小学校	毎年開催している赤門祭(文化祭)の日に行ってきた体験教室について、子どもたちの思いを生かして、保護者及び地域の方から参加いただき、拡充して開催した。

No.	事業名	学校名	事業内容
9	西小のゆるキャラを作ろう	燕西小学校	昨年作成した「ひまわり戦隊西小レンジャー」は、児童会のPR活動として大変盛り上がり、多くの児童に興味を持ってもらえた。今年度は、低学年から高学年まで親近感を抱けるようなキャラクターを作成した。
10	「モーニングあおぞら」(あいさつ運動)	燕南小学校	児童会の運営委員会が中心となって各学期に1回ずつ、朝児童玄関前に立って、挨拶運動を行ってきた。「日本一あいさつの良い学校を目指そう!」と呼びかけるため、あいさつ運動時の腕章を作成した。
11	ホタル復活プロジェクト	粟生津小学校	前年度から取り組んだプロジェクトを維持・発展させるため、粟生津地域にホタルを再生させ、長善館とともにシンボルとするため、ホタル飼育に取り組んだ。
12	私たちの学び、ホップ・ステップ・ジャンプ ～過去に学び、世界を考え、話し合う ～「3人の人との出会い」から	燕北小学校	「今、学ぶ意味は何か」について、長岡市戦災史料館スタッフ、長岡市国際交流センター長、国学院大学教授の3人から講師となっただき、「今を真剣に生きることの大切さ」を考えるため、講演会を開催した。



「教育環境の向上」

点検項目	9. 西部学校給食センター改築事業
25 年度達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 吉田学校給食センター及び分水学校給食センターの老朽化に伴い、二つの給食センターを統合し、新しい西部学校給食センターを建設する。</li> <li>・ 西部学校給食センターの稼働に向けて体制づくりを行う。</li> </ul>
目標の達成状況	平成26年9月からの稼働予定で準備を進めている。
取組の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 改築工事の実施</li> <li>・ アレルギー食対応マニュアルの作成</li> <li>・ 平成27年4月からの民間委託に向け準備</li> </ul>
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成26年9月からの稼働に向けて、改築工事を実施中。アレルギー研修会はH23年度から継続して実施している。今後は、学校ごとに具体的な研修を実施する必要がある。</li> <li>・ アレルギー対応マニュアルが完成し、各学校に周知した。</li> </ul>
評価委員の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アレルギーのある児童生徒の実態把握に努め、事故が発生しないように対策を検討していただきたい。</li> <li>・ 民間委託を進める中で、アレルギー調理の管理指導に市が関わることができるようにしていただきたい。</li> <li>・ 学校給食センターの整備は、なくてはならない絶対に必要な事業である。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アレルギー食に対応するとともに、安心安全な学校給食を提供できる給食施設を建設する。</li> </ul>

【所管：学校教育課】



「子育て支援の充実」

点検項目	10. 子育てつばめメール配信事業
25年度達成目標	子育てに関する相談窓口や支援制度、イベントなどの情報を、登録した保護者の携帯電話やスマートフォンへメール配信することにより子育てを応援し、市の子育て支援に関する事業や施設などを有効に活用してもらう。そのため登録会員の拡大を図る。
目標の達成状況	登録会員の目標人数500人に対し、平成26年2月18日現在398人の登録人数となった。
取組の概要	登録会員の拡大を図るため子育てイベント等に出向き、チラシの配布とともに事業の説明を行い会員の拡大につなげた。
自己評価	子育てサークルやイベント情報を配信し参加してもらうことにより、保護者同士の交流が図られ育児不安の解消にもつなげることができた。
評価委員の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今の時代に即した良い事業である。</li> <li>・メール配信で、様々な情報が流れていることは、大変良いことだと思われる。</li> <li>・若い人は、情報だけでなく、人と人が集まるような情報も必要と思われる。</li> <li>・利用者からの情報の問い合わせ等、双方向的に利用が可能な取組を検討するなど充実した事業に、できたら努力してほしい。</li> <li>・更新回数を増やし、新しい情報を提供していただきたい。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てつばめメールのPRを強化し、会員の拡大を図り、保護者の育児不安の解消と、安心して子育てができるように情報提供を行い、積極的に支援していきたい。</li> <li>・更新回数、情報内容について、検討をしていく。</li> </ul>

【所管：子育て支援課】



「子育て支援の充実」

点検項目	11. 病児・病後児保育事業
25年度達成目標	小児科医院に併設した保育施設において、病気の児童を一時的に保育し、安心して子育てができる環境を整備し、子育てをする保護者を支援する。そのため、実施者の選定と施設整備及び運営内容について実施者と協議を行う。
目標の達成状況	たかだ小児科医院が実施者として病児・病後児保育施設の整備を進めており、平成26年4月から事業を開始する予定。
取組の概要	病児・病後児保育の施設整備及び運営内容について、実施者であるたかだ小児科医院と協議を進める。
自己評価	病気の児童を一時的に保育する環境を整備することで、就労している保護者が安心して子育てができるように支援できる。
評価委員の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用時間について、保護者の就労を考えるともう少し長く利用できるようにしてほしい。</li> <li>・受け入れ人数の定員があるので、人数が多くなった場合、心配である。</li> <li>・1カ所なので、他の医院との協力をお願いしたい。</li> <li>・実施する医院が今後増えるようなPRに取り組んでほしい。</li> <li>・制度についての、市民へのPRをしっかりとしてほしい。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用時間については、実施後の利用状況により実施者と検討をしていく。</li> <li>・事業の実施状況を把握し、保護者が利用しやすい運営となるよう実施者と協議していきたい。</li> <li>・実施医院への支援を行っていく。</li> </ul>

【所管：子育て支援課】



「子育て支援の充実」

点検項目	12. (仮称) 燕西こども園整備事業
25年度達成目標	燕西幼稚園と燕保育園を統合し、現在の燕保育園を増築・改修して(仮称)燕西こども園として整備する。そのため、平成25年度は、必要とする用地の交渉と保護者への説明を行う。
目標の達成状況	施設整備に必要な用地の確保
取組の概要	園舎拡張用地取得のための用地交渉 燕西幼稚園、燕保育園の保護者に事業計画(案)を説明 保護者送迎用駐車場として一部用地取得及び駐車場整備
自己評価	燕西幼稚園・燕保育園施設の老朽化及び児童数の減少等を考慮し、幼保一体化施設として整備することで、教育・保育環境の改善が図れる。
評価委員の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育園と幼稚園が一緒になった燕南こども園は、料金体系に違いがあるのが気になるが、国が進める新制度の動向を見守りたい。</li> <li>・ 同じ園舎にいる、子どもたちの区別、差別化等の影響がないように進めてほしい。</li> <li>・ 保育園、幼稚園が一緒になることのメリットを確認し、良い面や良い所をPRしてほしい。</li> <li>・ 幼稚園・保育園の職員人事交流を行い、スムーズに運営ができるようにしていただきたい。</li> <li>・ 燕南こども園は、きれいな園舎で先生方も緊張感を持っており、良かった。環境の違う大勢の子どもたちが一緒にいるのは、刺激になって良いと思われるが、悪いことも確認が必要と思われる。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施設整備及び教育・保育内容については、保護者または関係者へ十分な説明をし、理解をいただきながら進めていく。</li> <li>・ 職員の資質向上を図るため、幼稚園教諭、保育士での合同の研修会を行っていく。</li> </ul>

【所管：子育て支援課】



「生涯学習・文化活動の充実」

点検項目	13. 家庭教育推進事業
25年度達成目標	<p>(1) 子どもたちの豊かな心を育てる活動を、地域・家庭において定着させ推進する。</p> <p>(2) 親子で食の大切さを学び、子どもたちが好ましい食生活を送るための力を育むことで食育を推進する。</p>
目標の達成状況	<p>(1) 家庭教育 講座参加人数： 目標 4,000人 実績 3,767人（予定含む） 講座申請団体： 目標 36団体 実績 35団体（予定含む）</p> <p>(2) 食育 講座（教室）数： 目標 2回 実績 2回（予定含む） 講座満足度： 「満足」、「やや満足」との回答者の目標 80% 実績 94%</p>
取組の概要	<p>(1) 家庭教育講座謝礼の一部助成 助成対象： 幼稚園、保育園、小中学校のPTAや保護者 助成額： 1団体 7,000円（上限）</p> <p>(2) 食育推進講座の開催 対象者： 市内の小学生とその保護者 講座内容： 郷土料理にチャレンジ 講座回数： 2回（12/23、2/1開催）</p>
自己評価	<p>(1) 家庭教育 ・講座参加人数、講座申請団体とも昨年の実績を上回ることができ、8つのチャレンジの定着を図ることができた。</p> <p>・8つのチャレンジについて、項目によって定着に差があると感じられる。</p> <p>(2) 食育 ・参加者の満足度も高く、食の大切さを伝えることができた。</p>
評価委員の評価	<p>(1) 家庭教育 ・地域と家庭の教育力が低下している中、保護者の意識、考えが大切である。保護者から積極的に関わってもらい、地域との連携を図る必要がある。</p> <p>・講師の謝金（7,000円）は安いのではないかとと思われる。</p> <p>・講演会だけでなく、参加者を巻き込んで、体験できるようなことが必要である。</p> <p>・8つのチャレンジが定着するような方法の検討は必要である。言葉を挙げて定着していない。</p> <p>・身近に、簡便にできる、地元で根ざした内容の事業があっても良いと思われる。地域との関わりについても検討してもらいたい。</p> <p>・地域や家庭との関わりは難しいが、地道に継続していくことが必要である。</p> <p>(2) 食育 ・食育については、大変頑張っているのが見受けられる。今後も広く市民</p>



	<p>に浸透するような方法を検討してほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>食育は郷土料理と給食を結び付けていく方法を検討してほしい。</li> </ul>
今後の方向性	<p>(1) 家庭教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭は、子どもたちの健やかな育ちの基盤であり、教育の出発点である。他課とも連携を図りながら保護者が安心して、子育てや家庭教育を行うことができるよう、様々な取組を行っていく。</li> <li>地域の特色ある体験活動が実施されるよう支援して行く。</li> <li>「心の燕市 8 つのチャレンジ」のさらなる啓発を行う。</li> </ul> <p>(2) 食育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>講座（教室）開催だけではなく、生きる上の基本である「食」をテーマに、食と健康に関する様々な取組を行っていく。</li> </ul>

【所管：生涯学習課】



「生涯学習・文化活動の充実」

点検項目	<p>14. 長善館史料館活性化事業 15. 分水良寛史料館活性化事業</p>
25年度達成目標	観光客、地元住民への館知名度の向上とともに入館者数の増加を目指す。
目標の達成状況	<p>(長善館)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年間入場者数：目標1,900人 実績1,823人（予定含む）</li> </ul> <p>(分水良寛史料館)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年間入場者数：目標5,800人 実績4,816人（予定含む）</li> </ul>
取組の概要	市内史料館(分水良寛史料館、長善館史料館、産業史料館)との3館連携として、小・中学生を対象に3館巡りスタンプラリーによる景品進呈を行い、保護者同伴の来館を促した。入館を促す展示に向けて、館蔵品の整理やリスト化の作業を筑波大学との連携で実施した。
自己評価	小・中学生の来館を推進し認知度の向上を目指したことから、前年比では長善館史料館3.9%、良寛史料館8.9%と増加したが、年度の目標値にはとどかなかった。
評価委員の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>2施設の場所が分かりにくく、案内表示に工夫をすべきである。</li> <li>施設情報のPR、発信の方法、迎える側の対応についても検討が必要である。</li> <li>筑波大学の学生とのコラボで、映像上映等の作成を検討してほしい。</li> <li>入館が増える工夫は難しいが、燕の文化の伝承のために、学習教材、学習体験や実践できるような様々な働きかけも検討が必要である。</li> <li>史料館を会場として、イベント、講座の開催など、郷土愛に繋がるような、市内一斉の催し等も検討していただきたい。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな事業との組み合わせも検討することにより、入館者が増えることもあると思うので、検討いただきたい。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代的な展示や見せ方の検討を進めるとともに、現状で可能な変更を加えることで来館者が好印象を得るよう工夫を行う。</li> <li>・筑波大学との連携から所蔵資料について解説などを進める。</li> <li>・市内3館（産業史料館を含む）や近隣館との連携を検討する。</li> </ul>

【所管：生涯学習課】

### 「生涯学習・文化活動の充実」

点検項目	16. 文化会館自主事業
25年度達成目標	市民のニーズに対応した優れたアーティストによる舞台芸術作品の提供を行うもとに、市民に芸術・文化活動の発表の場を提供することで、芸術文化の向上を図る。
目標の達成状況	年間自主事業入場者数 目標：7,230人 実績：8,669人（予定含む）
取組の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 市内小学校合同演劇鑑賞会の実施</li> <li>② ポップスコンサートの実施</li> <li>③ つばめ音楽祭邦・洋楽部門、ロック&amp;フォーク部門の開催</li> <li>④ 新潟県文化振興事業団との共催事業の実施</li> <li>⑤ 燕市文化協会との共催事業の実施</li> </ul>
自己評価	目標としていた自主事業入場者数は達成できたが、催しごとに入場者数のバラツキがある。
評価委員の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全て満席とするのは難しい。</li> <li>・公的なものなので燕市の文化的レベルを保って続けてほしい。</li> <li>・予算に限りがあると思われるが、魅力ある人の出演をお願いしたい。</li> <li>・駐車場が広くなって、利用しやすくなった。地元の会場で楽しい催しの開催もお願いしたい。</li> <li>・選択分野が難しいと思うが、文化レベルを保持するためにも継続して自主事業を行ってほしい。</li> <li>・催し物のPRには、広報紙だけでなく、ネット発信も取り組んでほしい。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な世代に喜ばれる自主事業を実施する。</li> <li>・広報紙以外にも多種のメディアを活用しPRに努める。</li> </ul>

【所管：生涯学習課】



「生涯学習・文化活動の充実」

点検項目	17. 恋ツバメ。普及事業
25年度達成目標	恋ツバメ。の楽譜・CDの無料頒布、出前生ステージ、市民音楽祭や各学校文化祭などで取り上げてもらうとともに、各家庭にも普及を図りたい。
目標の達成状況	市全域で防災行政無線の午後6時のオルゴールで使用され市民には聞き覚えがあるが、学校や合唱団には浸透していない。
取組の概要	①楽譜・CDの無償頒布 ②作曲者、演奏者である、ゴールデン佐藤と「うたや音楽堂」による市内小中学校への出張演奏。
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現時点では燕のメロディーとしては、定着はできていない。</li> <li>・歌の歌詞が分からない人が多いので、工夫が必要と考えている。</li> </ul>
評価委員の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・午後6時に流れるメロディーが「恋ツバメ。」とわからない人がいる。もっとPRしてもらいたい。</li> <li>・歌詞が分からない。</li> <li>・定着させてほしい。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、各学校、市内音楽祭でPRを行いながら普及を目指す。</li> <li>・曲だけでなく、歌詞についても普及に努める。</li> </ul>

【所管：生涯学習課】



「スポーツを通じた健康づくり活動の推進」

点検項目	18. 子ども体力向上サポート事業
25年度達成目標	小学生の基礎体力や運動能力の向上を図ることを目的として、サポートプログラムを作成し、モデル校(分水小学校)で実施する。
目標の達成状況	実施したことに対し学校側の意見を取り入れながら問題点の検証を行っている。
取組の概要	体育授業の最初の10分～15分程度の間で、準備運動を行う。基礎体力や運動能力を上げる準備運動で行うサポートプログラムを総合型スポーツクラブに依頼し、作成している。
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10分～15分間の短い時間だが、運動量も適量である。</li> <li>・生徒が慣れてきた頃に、どのようなプログラムを与えるかが課題である。</li> </ul>
評価委員の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育授業は、着替え等もあり、時間が短くなりがちなので授業が押し入れぎみにならないように配慮願いたい。</li> <li>・日常的にできる、縄とびなどを取り入れてほしい。</li> <li>・子どもは、家でのゲームをやっていて、体を動かさなくなる傾向がある。</li> <li>・学年が上がるに従い運動嫌いな子どもが多くなっているため、肥満が増えている、小さい時から体を動かすことが、楽しく面白いと思えるような工夫が必要である。</li> <li>・スポーツ体験を通して、日常的に楽しく運動できる工夫をしてほしい。</li> <li>・子どもの体力アップに向けたイベントなど、遊びを含めた中で、スポーツに親しむ機会を増やしてほしい。</li> <li>・全市一斉に、同じスポーツ、同じ競技、みんなで共通の競技をやることで、楽しさにつながるような取り組みも大事なことと思う。</li> <li>・体力は、部活をやっている生徒とやっていない生徒を比較すると二極化している。</li> <li>・学力向上にも、体力は必要である。学力向上を継続させるためにも、子どもたちは体力をつけてほしい。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童・生徒が自主的に正しく行えるようなプログラムの作成を行う。</li> <li>・市内小学校の全学年において、体力テストの全国平均を上回ることを目指す。</li> <li>・子どもたちが楽しく運動ができるようなプログラムを作成する。</li> </ul>

【所管：スポーツ推進課】



「スポーツを通じた健康づくり活動の推進」

点検項目	19. 東京ヤクルトスワローズカップ少年野球交流大会開催事業
25年度達成目標	東京ヤクルトスワローズに関連が深い全国の4市が、少年野球を通じて交流することで、スポーツの振興と競技力の向上を図る。
目標の達成状況	野球を通してスポーツ交流を行うとともに、プロとの交流を通じて、子どもたちに夢やあこがれを与えることができた。
取組の概要	平成25年度は、松山市において4市の代表チームが試合を行い、交流を深めるとともに、憧れであるプロの選手との交流も行った。
自己評価	・各市との交流のみならずプロ野球選手との交流もあり、子どもたちの成長に良い刺激となった。
評価委員の評価	・グラウンドなどの施設整備は、事業に関わらず必要である。 ・良い事業ではあるが、もう1つ何か付加価値をつけてもらいたい。 ・予算の関係もあり、毎年続けられるのかどうか心配である。長く続けてもらいたい。
今後の方向性	・各4市において輪番制で毎年交流を開催する予定。 ・平成26年度は、燕市が開催する準備を行っている。

【所管：スポーツ推進課】

IV 教育行政評価結果報告書作成にあたって

市長と教育長が力を合わせて、子どもたちの学力向上に取り組んでおられ、子どもたちがいきいきしているように思われる。家に帰ってやれない子どもは学校でやり、一人ひとりに向き合った学習が進められているようである。数値目標を掲げ、学力向上に向け集中的に取り組む、市全体で取り組むことが必要であり、積み重ねが大事である。

学力も体力も行政サイドで引っ張るような取り組みを実施してほしい。常に柔らかな視点で1つでも、2つでも新しい事業に取り組んで、市民が誇りを持てるようなもの、全国的にも評価される事業を検討していただきたい。同じ事業だけでなく市民の目が向くような事業を考えてほしい。

少子化により、子どもが減っているため、事業をやっても盛り上がらない状況がある。積極的に市民の意見を汲んで、リーダーとして、市民を引っ張っていくことも大事な行政の仕事である。一歩、二歩前に出て、先見の明を持って事業を作っていくしてほしい。

ぶれない、明るく、活発な子どもたちを育てていただきたい。



